

# コミュニケーション能力を高めるN I E

～まわしよみ新聞づくりを通して～

明石市立二見西小学校 校長 長井 佐智夫  
主幹教諭 若生 佳久

## 1. はじめに

N I E実践指定校として2年目。実践学年は昨年度と同じ5年生での実践となった。

教科では、国語科や社会科、理科等で新聞を活用しての授業を行った。

国語科では、「新聞を読もう」（光村図書）の単元において、発信者（新聞社）の違いによって記事内容や表現の違いについて学習した。例えば、「見出しの違いや文字の大きさ」「写真の大きさ」「文章表現の違い」などである。記事の内容が、重要度の高い内容を最初にもってきたあと、だんだんと詳細な内容になるといった逆三角形であることも学習した。

社会科では、「情報を伝える人々」（教育出版）の中で、情報を伝える人々の活動からそれぞれのメディアの長所や短所を学習し、情報の重要性や正確性についての学習もした。

理科では、毎日掲載される「天気図」を元に「天気の移り変わり」や「台風」の動きなどを学習した。

これらの教科の学習の他に、昨年度同様に新聞記事の視写を通して「文章を読み取る力を高める」という実践を行った。昨年度は、新聞記事の視写を2学期の後半から行ったが、今年度は1学期の最初から実施した。また、文字を丁寧に書かせたいということも考え、丁寧に視写をさせる実践も行った。（詳細は「2. 主な実践」で紹介）これらの活動を通して、今年度も新聞の視写をすることで、文章を読み取る力がついてきたのを授業の中で実感した。なお、客観的な数値として見ると、各学期の国語の読み取りテストの平均点は、**1学期 85点。2学期 95点。3学期 95点。**であった。このように、文章を読み取る力がついてきているのがわかる。

## 2. 主な実践

1学期は、昨年と同様に国語科の教科書の授業（前述）を行った。また、4泊5日の自然学校新聞も作成させた。そして、新聞記事を使った実践として、前述の視写と書写がある。視写については、昨年度に実践を載せているため、今回は書写について述べる。

右の写真が書写用のプリントである。本校では、「毎日小学生新聞」が配達されているため、その中から短い記事を探し、エクセルで表を作った後、マス目の中に一文字ずつ入力するという作業を行い、プリント作成をした。当然、その記事の日付や新聞社名も記載している。入力文字は、なぞり書きができるように濃いめの灰色に色を変えている。「とめ」「はね」「はらい」を意識できるよう

2017年 2月16日付 毎日小学生 新聞						月 日 ( )	名前
で	会	9	冬	へ			
記	場	日	季	ピ	2	カ	
念	と	で	オ	ヨ	0	ウ	
式	な	1	リ	ン	1	ン	
典	る	年	ン	チ	8	ト	
が	ホ		ピ	ヤ	年	ダ	
開	ツ	ア	ツ	ン	に	ウ	
か	ケ	イ	ク		か	ン	
れ	丨	ス	ま	で	ん		
ま	セ	ホ	で	開	国		
し	ン	ツ		か	・		
た	タ	ケ	2	れ	平		
	丨	丨	月	る	昌		

に、文字も大きくしている。記事の文字数が多いと、集中が続かない児童もいるため、題名を入れて100字までの記事を選ぶようにした。前頁の記事は、題名が「7文字」、記事が「78文字」、計「85文字」である。

2学期は、9月から新聞が配達されるため、昨年同様新聞コーナーを設置し、新聞に親しませることから始めた。昨年度より設置する机を大きくし、6紙が正対しておけるようにした（右写真）。机の上には通常1週間分の新聞を置き、机の横にはそれ以前の新聞を置いて、自由に新聞記事を探せるようにした。



教科では、国語科で「和語漢語外来語」（光村図書）という単元があるため、新聞記事から「和語」「漢語」「外来語」を探させ、ノートに書き写させるという授業も行った。発展として「身のまわりの中から探しましょう」という学習内容であるため、新聞から探させてみた。そうすると、予想以上に児童の新聞への関心が高まった。この授業はおススメであると思い、他のクラスにも紹介した。

10月からは、毎日、日番に新聞記事を選ばせ、その日の新聞で気になった記事を発表させる「今日の新聞から」を実施した。昨年度も実践したが、最初はどんな記事を選び、どのようにまとめればよいのかが分からない児童も多いため、クラス全体での一斉指導を行った。そして、記事内容をうまくまとめ、記事に対する感想を分かりやすく書いている児童を何例か提示し、書き方の手本とした。

次に、朝日小学生新聞から「N検」（ニュース検定）の案内状と今年前半の主な出来事をまとめた特集版の新聞を希望者に配送するという案内がきたため、申し込みを行った。学年全員分の新聞が届き、その新聞を配布した。このN検を児童に紹介すると、児童はN検に興味をもったため、N検と同じような形式で以下のような問題をつくり、西小版のN検を行った。

次に、朝日小学生新聞から「N検」（ニュース検定）の案内状と今年前半の主な出来事をまとめた特集版の新聞を希望者に配送すると言う案内がきたため、申し込みを行った。学年全員分の新聞が届き、その新聞を配布した。このN検を児童に紹介すると、児童はN検に興味をもったため、N検と同じような形式で以下のような問題をつくり、西小版のN検を行った。

（問題1）

右の写真は、東京・上野動物園で育つジャイアントパンダを写したものです。この子どものパンダの名前は何ですか。

- ① シンシン    ② シャンシャン
- ③ ユイヒン   ④ ランラン

（問題2）

右の写真は、公式戦で29連勝を達成した将棋の藤井聡太棋士です。藤井棋士は何段ですか。

- ① 二段    ② 三段    ③ 四段    ④ 五段

（問題7）

天皇陛下が退位の意向を示されたあと、今年の6月に参議院本会議で「天皇の退位等に

2017年10月  
朝日小学生新聞 時事ニュース特集検定

## 検定問題

News in Education

年 組 番 \_\_\_\_\_

名 前 \_\_\_\_\_

点  →  級

★それぞれの問題を読んで、正しいもの一つ選びなさい。

**問題1**  
右の写真は、東京・上野動物園で育つジャイアントパンダを写したものです。この子どものパンダの名前は何ですか。  
① シンシン    ② シャンシャン    ③ ユイヒン    ④ ランラン  
答え

**問題2**  
右の写真は、公式戦で29連勝を達成した将棋の藤井聡太棋士です。藤井棋士は何段ですか。  
① 二段    ② 三段    ③ 四段    ④ 五段  
答え

**問題3**  
右の写真は臨時国会の冒頭で衆議院を解散した様子を写したものです。この時の総理大臣は誰ですか。  
① 安倍 晋三    ② 麻生 太郎    ③ 菅 義偉    ④ 野 田 聖一  
答え

関する皇室典範特例法」が可決、成立し、公布されました。天皇陛下は退位後何という称号になるのでしょうか。

①上天皇 ②上皇 ③上皇后 ④長皇

児童は、検定という言葉で何級になるのかというワクワク、ドキドキがあったため、楽しんで特集記事を読んでいた。このような少し変わった学習も面白かった。次回も機会があれば作っていきたいと思う。

### 3. 「まわしよみ新聞づくり」の実践

第8回近畿NIEフォーラムが大阪市立天王寺中学校で開催された。そこで、ワークショップとして「まわしよみ新聞編集長養成講座」が実施された。講師は、陸奥賢氏（NPOまちらぼ代表理事）で、とても楽しい新聞を活用した研修であった。

このワークショップを体験し、「まわしよみ新聞づくり」は、児童にとって新聞に親しみ、新聞をより身近に感じ、新聞づくりを通してコミュニケーション力を高めるのに非常に効果的であるのではないかと思い、指導計画を立てることにした。

児童への授業の前段階として、教師を児童に見立てた模擬授業を行うとともに、教師の研修として「まわしよみ新聞づくり」を行った。研修の場としては、「NIE研究会」の活動で実施した。この「NIE研究会」は、明石市の教育研究所内の研究講座、研究グループの一つであり、国語科や社会科といった教科の他にそれぞれの分野で研究を行っている。研修に参加したメンバー全員から、この「まわしよみ新聞づくり」が、児童にとって有用であるという意見をもらうことができた。

以下、児童への授業実践について述べる。

時間設定は、2単位時間とした。小学校の1単位時間は45分。したがって90分の実践である。ただし、途中休み時間を5分とる。

1回目は、作り方の説明の時間をとり、見本の「まわしよみ新聞」を児童に提示した。この「まわしよみ新聞」は、前述の「NIE研究会」で教師が作った新聞である。

2回目以降は、説明の時間は省略し、すぐに「まわしよみ新聞」を作り始めた。

（作り方）

① 1グループは、3～4人

② 1グループで使用する新聞は、5～6部。新聞コーナーに設置している新聞を使用する。

② 準備するものは、模造紙、ハサミ、のり、カラーペンなど。

③ まわしよみタイム（20分）。新聞を見ていき、自分の気になった記事や写真などを切り抜く。広告を切り抜いてもよい。次々と新聞を交換して見ていってよい。時間内に3～5つの切り抜きをする。切り抜いた新聞は、新聞名、日付、切り抜いた者の名前を書く。どんな記事を選んだのかを見られないように裏向けておく。

④ お話タイム（20分）。自分が切り抜いた記事を提示し、その記事を選んだ理由を述べる。本来は、ここで30分を取るのであるが、最初の説明で10分取ってしまったため、第1回目は20分とした。2回目以降は、30分の時間を確保した。同じグループ員は、その記事についての感想や知っていること、思ったことなどを発表する。ここで、いろいろな話がなされ、コミュニケーションがとれる。

- ⑤ 新聞づくりタイム（40分）。模造紙に「題名（まわしよみ新聞など）」「今日の日付」「場所（5年1組教室など）」「コメント」「イラスト」を必ず書くようにする。模造紙に新聞記事をどこに何を貼るのかを考えさせる。新聞記事の横などにその記事を選んだ人の名前（またはイニシャル）を書く。本人のコメントの他にグループ員もコメントも記入する。どんなコメントを書くかを相談してもよい。
- ⑦ できあがった「まわしよみ新聞」を掲示する。自分たちの新聞以外の新聞も見て、感想を述べ合う。次の「まわしよみ新聞」づくりの参考にする。
- ⑧ 廊下に掲示する。廊下を通る他の児童にも自分たちの作った新聞を見てもらうことで、次の新聞づくりへの意欲になる。

第1回目の「まわしよみ新聞」の写真を下に載せる。初めてということもあり、記事は写真が中心である。



#### 4. 成果と課題

「まわしよみ新聞」は、思った以上に児童間のコミュニケーションに役立った。1回目は、食べ物や季節の写真が多く、それらの写真についてグループ内で「食べたことがある」「行ったことがある」などの話をしていた。2回目以降になると、社会の出来事についての記事も選ばれるようになり、その記事内容について話し合いをしていた。その内容も自分の知っていることや感想などを語っていた。興味深いものとして、「北朝鮮のロケット」の記事であった。身近に迫る脅威として、児童はその記事に関心を寄せていた。6年生では、「総合的な学習の時間」で平和学習をする。その時に今回の記事を思い出し、戦争についての自分の考えをしっかりと持てるのではないかと期待する。これからもこの「まわしよみ新聞づくり」を実践することで、世の中の出来事に関心をもち、児童同士のコミュニケーション向上に役立てればと思う。

課題として、この「まわしよみ新聞づくり」には、少なくとも2単位時間必要である。また、新聞の絶対数を確保しなければならないことが挙げられる。今回は、8グループでの実践のため、40部以上の新聞を用意した。児童に呼びかけ、家庭からの新聞を持ってきてもらうなど、新聞の用意も欠かすことができない。

「時間と新聞」。この二つがこれから実践していく上での課題といえる。